

日本人の



京都、こころここに

vol.15

「イカした生活」に
あこがれて…
バブルは崩壊した

先般、BSテレビで映画化された石原慎太郎原作の「狂った果実」を観ました。太陽族と呼ばれる上流階級の青年たちは夜はダンスホールでフレアスカートにピンヒールの女子とシルバに興じ、昼はアメリカ製のオープンカーで湘南海岸に出かけ水上スキーに明け暮れる…。石原裕次郎主演ヒット作のストーリーはさておき、アメリカのドラマさながらのゴージャスなセットに目を奪われました。戦後の「あれから10年」と呼ばれた一九五六



SPHINX (2000年製作)

年上映のこの映画を観た当時の日本人のほとんどは、こんな「イカした生活」に憧れ、欧米の近代化された生活を手に入るべく懸命に働き、やがて高度経済成長、バブル経済、そして崩壊へと時代は変化してゆきました。

あきらめない心

日本画家 森田 りえ子さん



もりた・りえこ 神戸市生まれ。1980年、京都市立芸大日本画専攻科修了。2000年、京都市芸術新人賞受賞。11年、京都府文化賞功労賞受賞。金閣寺本堂杉戸絵・客殿天井画、真澄寺別院流瀾院襖絵など制作。海外含め個展開催多数。京都市北区在住。

メリハリのある彫像の立体感が表現できるかを追求していました。それが絵画の基礎力という考え方でした。ところが、京都市立芸術大に入学、日本画を専攻するや、モチーフに花を渡され、陰影をつけず植物の色相と線描で表現しないとの指示を受け、戸惑いの連続でした。それまでに培われた西洋的な物の見方、捉え方を否定する？ そう易々と切りかえられない…。上村松園先生や伊東深

民族DNAに誇りを持ち 再び活力を

日本人は伝統を守りながらも固執することなく海外の文化や息吹き取り込み、それを咀嚼し融合させて独自の日本文化を創造してきました。なんて柔軟かつ融通性に富んだ民族なんだろう。加えて、あくなき探求心、向上心そして勤勉な精神、「あきらめない心」は日本人の遺伝子DNAの中で、いにしえより受け継がれ、脈々と流れ続けているように思えてなりません。

京でたどりついた新しいタイプの日本画

それから程なく、京都にアトリエを構え、本格的に画家としての活動をスタートさせました。四季の移ろいを肌で感じる日常。鴨川の川辺を散歩しながら水のせせらぎに耳を傾けると、ふと迷い込んだ路地の町家の軒先にさびげなく生けられた花に出合うとき、緊張感が次第に解けて素直な心持ちになってゆく自分を感しました。また先人たちが残した貴重な文化遺産に出会いに行くと、同じ高さの目線で、大切なことを語りかけてくれました。京都は街全体が画家にとって、多くの知恵とインスピレーションを与えてくれる博物館なのです。



終野五色橋 (六曲一雙屏風, 部分) =2007年制作)

戦後、日本人は物の豊かさや引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

日本の暦

寒露 (10月9日)

「寒露」は秋分から数えて15日目のころの節気です。初秋から仲秋にかけて野草に夜露が宿り、その露が冷たい空気と接し、木々は紅葉の準備にさしかかる季節です。五穀百果は実り、収穫もたけなわで、いよいよ秋本番。各地の神社では収穫を祝う秋祭も行われます。1年を72の季節に分けた暦「七十二候」では「雁来る」と呼ぶ候にあたります。北の国から冬鳥の雁が渡ってくる季節になったことを知らされます。

リレーメッセージ



小説家 松村 栄子さん

これと言った友人はみな笑うのだが、今年わたしは町内会の「体育振興委員」なのだ。生来怠け者で運動音痴なのにおこがましいことである。

それでも引き受けてみたのは、住んでいる町のことを知らなすぎに思ったからだ。そもそも自分の属している町内会の名称からしてよくわかっていなかった。役員会に参加して初めて知ったというくらい。体育振興委員は町内で「体振さん」と呼ばれている。一年のメインイベントは区民運動会で、賛助金集めに個別訪問したりするのは、夏の最中、熱中症との闘いでなかなか大変だ。けれど、一軒一軒巡っていると面白い発見もある。消防士さんとはかり思っていた人が商店のご主人だったり、古いお宅に住んでいるのが家外新任で逆にあれこれ質問されたり。一度お話ししてみたら方に声をかけるチャンスもできた。町内会も運動会も、なくそうと思えばなくせそうなものだけれど、こんなふうにとつとつでも近隣の人や家を気にしている関係というのにも優しくていいなと感じている。前よりもさらに自分の町が好きになっているのだから。

(次回10月16日のメッセージは、書家の木積源穂さんです)

「日本人の忘れもの」は、京都新聞ホームページ <http://kyoto-np.jp/kp/kyo-np/info/nwc/>で観てください。

Asahi その感動を、わかちあう。

うまい!を明日へ!プロジェクト

京都府 文化財の保全活動に!

アサヒビールは、京都府内で販売した「アサヒスーパードライ」対象商品1本につき1円を「文化財を守り伝える京都府基金」に寄付し、京都の貴重な文化財の保存修理や保全活動にお役立ていただきます。

※4第5弾結果報告 平成22年秋に実施した「うまい!を明日へ!」プロジェクト第4弾では、951万5,046本のご愛顧をいただきました。1本につき1円、合計951万5,046円を、文化財の保全活動にお役立ていただきました。

この商品1本につき1円が環境保全などに活用されます。 www.superdry.jp

美しい日本をつくる。

アサヒスーパードライ「うまい!を明日へ!」プロジェクト第5弾

スーパードライ1本につき1円が文化財の保全などに活用されます。 www.superdry.jp

STOP! 未成年者飲酒 飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。ほどよく、楽しく、いいお酒。のんだあとはリサイクル。 www.superdry.jp 0120-011-121 アサヒビール株式会社